

# ZEN大学

— 2024年度 事業報告書 —

日本財団ドワンゴ学園



# 目次

---

1. 事業の目的
2. 事業の目標
3. 各事業報告
  - a. 地域企業連携
  - b. 留学
  - c. AI活用人材研究プロジェクト
  - d. ソーシャルイノベーション概論
  - e. 奨学金

# 1.事業の目的



# 事業の目的

オンライン型高等教育機関「ZEN大学」では、地理的・経済的理由により進学が困難な子どもたちを含む幅広い層に、居住地にいながら受講することができるオンライン講座等を安価な学費で提供することにより、教育機会の格差是正を目指す。

本助成事業では、意欲の高い学生に下記の機会を提供することで、実社会で求められるスキルを身につけた人材を育成する。

- ・リアルな現場で実践的な経験を積むための「地域企業連携・留学プログラム」
- ・高度なAI活用スキルを備える人材育成のための「AI活用人材研究プロジェクト」
- ・社会変革への理解を深め行動を起こす人材を育む「ソーシャルイノベーション概論」
- ・地理的、経済的理由で進学が困難な層を含む主体的、積極的な学生に学習と活動の機会を提供するための「奨学金」

## 2.事業の目標



# 事業の目標

## 1. 地域企業連携プログラム

- ①自治体・企業／団体・海外との課外プログラムを、年間 70プログラム・総参加学生数 3000名以上
- ②プログラムの参加者数、および事後アンケートによって測定する(満足度 80%以上)。

## 2. 留学プログラム

- ①・2プログラム(ボストン、シリコンバレー)の実施。参加者 40名  
・1プログラム(サマーセッション)の募集・選定・出願手続きの実施。参加確定者 10名
- ②プログラムの参加者数、および参加者の事後アンケートによって測定する(満足度 80%以上)。

## 3. AI活用研究プロジェクト

- ①総参加者数200名以上のZEN大学以外の学生・中高生を50%以上含むインカレコミュニティの形成。学術研究へのAI活用に関する知識・スキルの向上
- ②コミュニティの参加者数・属性、およびAI活用に関する事後アンケートによって測定する(知識・スキルが向上した参加者の割合 80%以上)

## 4. ソーシャルイノベーション概論(講義)

- ①本講義の受講者数500名を目指し、学生がソーシャルイノベーション(社会変革)の基礎を理論や具体例から理解し、行動に繋げる学びの土台を作るとともに、新しい時代における社会貢献活動の社会的意義や目的、経済的効果等に関する基本的な知識を習得できるようにする。
- ②講義の受講者数、および授業アンケートによって測定する。(満足度 80%以上)

## 5. 奨学金

100名への奨学金の給付と対象学生のコミュニティ形成を目指す

### **3.助成事業完了報告(地域企業連携プログラム)**



# 事業内容

## オンライン大学の開学に向けて、以下の事業を実施する

1. **地域・企業連携プログラム(高校生向けプロトタイプ実施)**
  - 1.1. **時期:2024年12月～2025年3月**
  - 1.2. **内容:高校生向けに地域連携プログラム ※1・企業連携プログラム ※2をZEN大学で実施した際のプロトタイプの役割として実施する(25件)**
2. **地域・企業連携プログラム(ZEN大学プログラム)**
  - 2.1. **時期:2025年4月～2026年3月**
  - 2.2. **内容:ZEN大学生向けの地域・企業連携プログラムの実施する(70件)**
3. **海外スタディツアー(ZEN大学プログラム)**
  - 3.1. **時期:2025年4月～2025年3月**
  - 3.2. **内容:海外で活動するNGO・企業等による海外スタディツアーを実施する(4件)**
4. **目標参加学生数**
  - 4.1. **3400名程度(高校生400名程度 + 開学後、大学生3000名程度)**

※1 地域連携プログラムとは:

各地域の産業、日本伝統文化の体験、災害支援等、学生が主体的に参加できる地域でのインターン、ボランティアやスタディツアープログラム

※2 企業連携プログラムとは:

IT企業と連携した社会課題解決プログラムや、農業X等、学生が大学で学んだTやビジネス、社会課題解決スキルを活かせる企業等との連携プログラム



# プログラム実績報告 \_高校向け\_内訳

## オンライン型 10件 内訳

- オンライントークセッション\_8件
- オンライン完結型ワークショップ\_2件

## 現地型 21件 内訳

- 単日型プログラム\_6件
- 宿泊型(1週間未満)プログラム\_15件

### 実施したプロトタイププログラム(一部抜粋)

- ・山口県萩市:日本の祭りを「学び撮る」～ 4日間のカメラマン体験プログラム in 山口県萩市～
- ・沖縄県宮古島市:海をめぐる4泊5日の旅 宮古島でサステナブルツーリズムについて考えよう
- ・東急株式会社:絶品さつまいもスイーツをPR! 最高のビジネスプランナーになるまでの5ヶ月間
- ・日本笑顔プロジェクト:災害に強い自分を作る! 重機操作や火の扱いを学ぶ ～災害対策実践キャンプ～  
など



# プログラム実績報告 \_ZEN大学生向け(国内・海外)\_内訳

## オンライン型 42件 内訳

- オンライントークセッション\_36件
- オンライン完結型ワークショップ\_6件

## 現地型 48件 内訳

- 単日型プログラム\_17件
- 短期間型(1週間未満の宿泊 or 訪問回数4回以下)プログラム\_19件
- 長期間型(1ヶ月の滞在)\_12件

## 海外フィールドワーク 4件

### 実施したプログラム(一部抜粋)

- ・福島県西会津町(現地1ヶ月滞在) : 生きると生かされるを学ぶ
- ・沖縄県うるま市(現地1週間滞在) : 100年の歴史ある地域の拠点 共同売店をDX化
- ・株式会社リコー(現地4回訪問) : ビジネスデザイナー育成プログラム
- ・株式会社野村総合研究所(online) : 金融リテラシー向上委員会
- ・インドネシアフィールドワーク
- ・マレーシアフィールドワーク
- ・オーストラリアフィールドワーク
- ・カンボジアフィールドワーク

など

## トークセッション

満足度: 95.4% / 目標達成119%

## 参加型プログラム

(オンライン完結型ワークショップを含む)

満足度: 97.6% / 目標達成122%



# 事業内容に対する成果

## 1. 地域・企業連携プログラム(高校生向けプロトタイプ実施)

### 1.1. 内容:高校生向けに地域・企業連携プログラム をZEN大学で実施した際のプロトタイプの役割として実施する( 25件)

成果▶大学生向けプログラムの試験的实施として高でプロトタイププログラムを31件実施し、目標達成。北海道、東北、関東甲信越、東海、中四国、九州などほぼ全国に渡る地域で実施。恵那市、西会津町、宮古島市等2025年度への実施にスムーズに接続することができた。

## 2. 地域・企業連携プログラム( ZEN大学プログラム)

### 2.1. 内容:ZEN大学生向けの地域・企業連携プログラムの実施する( 70件)

成果▶大学生向けプログラムとして2025年度は国内の課外プログラムを90件実施し、目標達成。リコー・日本旅行などの大手企業だけでなく、福岡・横須賀・桐生の商工会議所などの地域団体ともプログラムを実施。北は北海道から南は沖縄まで幅広い地域でプログラムを展開した。

## 3. 海外スタディツアー( ZEN大学プログラム)

### 3.1. 内容:海外で活動する NGO・企業等による海外スタディツアーを実施する( 4件)

成果▶大学生向けプログラムとして2025年度は海外スタディツアー4件(インドネシア、マレーシア、オーストラリア、カンボジア)を実施し、目標達成。

## 4. 目標参加学生数

### 4.1. 3400名程度(高校生400名程度 + 開学後、大学生3000名程度)

成果▶参加者は約3,000名と目標に及ばなかった。オンラインプログラムに大きな参加数を見込んでいたが、思うように参加が伸びず、想定を下回った結果となった。

### **3.助成事業完了報告(留学プログラム)**



# 事業内容と目標達成状況

## <事業内容>

オンライン大学の開学に向けて、以下の事業を実施する

### 2. 留学プログラム(①ボストンプログラム、②シリコンバレープログラム、③カリフォルニア名門大学サマーセッション)

(1) 時期: 2024年12月～2026年3月(3プログラム予定※内1プログラムは26年夏渡航のため渡航前準備まで)

(2) 場所: アメリカ(①ボストン、②シリコンバレー、③カリフォルニア)

(3) 参加学生数: 50名(内10名の渡航は26年6月予定)

(4) 内容:

- 留学プログラム実施準備、説明会、募集活動、選考
- 出発・出願手続き
- 事前研修の実施
- 渡航先での留学プログラムの実施

(5) 目標と達成状況

- 目標: 参加者・参加確定者数
  - 2プログラム参加者: 40名(ボストン、シリコンバレー)
    - 実績: 40名 目標達成
  - 1プログラムの参加確定者: 10名(カリフォルニア名門大学サマーセッション)
    - 実績: 2名 目標未達成 ※ GPA、語学要件を満たす応募者が想定より少なく未達成となった
- 目標: 参加者の満足度: 80%以上(ボストン、シリコンバレー)
  - 実績: 100% 目標達成



# 各プログラム報告

## ①ボストンプログラム

- 研修名:ボストン短期留学プログラム
- 開催日程:2026/3/8-3/23 (16日間)
- 滞在場所:アメリカ ボストン
- 参加費:25万円程度
- 研修受入機関:Showa Boston Institute
- 定員:30名 | 参加者:30名
- 研修概要:  
ボストンにあるShowa Boston Instituteに2週間滞在し、アウトプット重視の授業で英語コミュニケーション能力を図りつつ、午後は授業に直結するフィールドトリップやゲストスピーカー講義を通してアメリカの文化や社会についての学び異文化理解を深める
- プログラム全体の満足度:100%
- 研修成果:  
英語研修やフィールドトリップ等を通じて実践的な英語コミュニケーション力の向上と異文化理解を深めた結果、「英語を話すことへの心理的ハードルの低下」や学習意欲が向上につながった。大学訪問やフィールドトリップ等を通じ、多様な価値観や社会への理解が深まる機会となった。

### <研修スケジュール>

|                 | AM                                      | PM                              |
|-----------------|---|---------------------------------|
| 3/9(月)          | ・Orientation                            | ・City Tour                      |
| 3/10(火)-3/13(金) | ・Practical English<br>・American Culture | ・Field Trip<br>・Guest Speaker   |
| 3/14(土)、15(日)   | New York City Trip                      |                                 |
| 3/16(月)-3/17(水) | ・Practical English<br>・American Culture | ・Field Trip<br>・Guest Speaker   |
| 3/18(木)         | ・Presentation and Review                | ・Practical English: Review Quiz |
| 3/20(金)         | ・Conversations and Reflection           | ・Closing Ceremony               |



# 各プログラム報告

## ②シリコンバレープログラム

- 研修名: シリコンバレーから学ぶ: スタートアップと可能性の聖地
- 開催日程: 2026/3/15-3/22 (8日間)
- 滞在场所: アメリカ シリコンバレー
- 参加費: 31万円程度
- 研修実施機関: WiL
- 定員: 10名 | 参加者: 10名
- 研修概要:  
スタートアップの聖地シリコンバレーでスタートアップ企業訪問やデザイン思考ワークショップ、現地で活躍する起業家・イノベーターとの交流を行う。これらを通じて、最新のテクノロジーやスタートアップ事業の理解を深め、キャリアの選択肢を広げる。
- プログラムの満足度: 100%
- 研修成果:  
スタートアップ訪問、起業家・イノベーターとの交流、デザイン思考ワークショップ等を通じて、シリコンバレーに根付 Growth Mindを体感した。「Yes, and」の文化のもと自己と深く向き合い、Thinker からDoerへの変革を促進。自らのミッションステートメントを策定し、具体的な行動目標を宣言。挑戦を前提に行動するマインドと主体的に行動する力を深めた。

### <研修スケジュール>

|         |   |
|---------|---|
| 3/15(日) | ・PM: サンフランシスコ観光、Waymo体験   |
| 3/16(月) | ・ミッションステートメント、イノベーション概論<br>・パロアルト散策<br>・スタンフォード大学見学<br>・ゲストスピーカー講義、ネットワーキングディナー                   |
| 3/17(火) | ・企業訪問(Plug and Play, JIC, Kailas Robotics)<br>・デザイン思考ワークショップ、街頭インタビュー<br>・ゲストスピーカー講義、ネットワーキングディナー |
| 3/18(水) | ・デザイン思考ワークショップ、街頭インタビュー<br>・スタートアップVC基礎<br>ゲストスピーカー講義、ネットワーキングディナー                                |
| 3/19(木) | ・企業訪問(Meta, Google, Apple ビジターセンター)<br>・ミッションステートメント作成  |
| 3/20(金) | ・伊佐山様講演「起業家精神とは」<br>・振り返り、ミッションステートメント・行動宣言発表   |



# 各プログラム報告

## ③サマーセッションプログラム

- 開催日程: 2026年6月～8月 (8週間)
- 滞在場所: アメリカ カリフォルニア
- 参加費: 53万円程度
- 協力機関: SAF
- 研修実施機関: UCLA、UC Berkeley
- 定員: 10名 | 参加確定者: 2名
- 研修概要:

世界トップランキングのカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 及びカリフォルニア大学バークレー校 (UCバークレー) が夏季に開講する学部レベルの授業を履修し、専門的知識の修得と学術的視野を広げることを目指す。また、世界各国から集まる留学生や現地学生との交流・協働を通じて、国際的なコミュニケーション力を高め、異文化環境において主体的に学修に取り組む姿勢を養うことで、将来の学びやキャリア形成に繋げることを目的とする。
- 完了状況:

派遣が2026年6月開始であることから、2026年3月末までに募集・選考を実施し、参加者確定の上、留学先であるUCバークレーへの出願手続きを完了した。事前研修を実施し、計画通り派遣開始に向けた準備を完了した。

### **3.助成事業完了報告( AI活用人材研究 PJ)**



# 事業内容

ZEN大学以外の学生・中高生を50%以上含む学術的なインカレコミュニティの形成と、学術研究へのAI活用に関する知識・スキルの向上に関する事業を行う。具体的には次のような支援

- a. AI×人文社会の研究に関する奨励金制度を軸とした研究活動の支援
    - i. 奨励金A: 年間最大28万円 (AI活用奨励金として毎月定額 3.5万を支援)
    - ii. 奨励金B: 年間最大100万円 (研究補助費として毎月定額 3万 + 研究費を実費分を支援)
    - iii. 奨励金C: 年間最大250万円 (研究補助費として毎月定額 3万 + 研究費を実費分を支援)
- 上記に関して、全体 125名の募集に対して、485件の応募があった。

また、プログラム開始後は下記の活動を実施した(詳細は次ページ以降で記載)。

- b. オンライン上のコミュニティ活動
- c. リアルな学術的イベントの開催
- d. コミュニティと融合した研究プロジェクト



# オンラインのコミュニティ活動

- 9月以降、月に2回程度、オンラインでの定例会を実施した。参加は強制とはせず、各回毎に参加者を募る形で実施し、平均33.2人が参加
- 徐々に異なる分野間のメンバーの深い交流が行われるよう、後半ではテーマを設定した議論回やワークショップを行った。後半から議論のファシリテーション自体をメンバーから募り、徐々にメンバー主体の議論の場へ移行。学生主体の合宿実施へと繋がった。

| 日付         | テーマ                               | 参加人数 | うちファシリ数 |
|------------|-----------------------------------|------|---------|
| 2025/09/11 | オンラインポスター発表&【任意】自主企画等の検討など        | 28人  |         |
| 2025/09/25 | オンラインポスター発表&【任意】自主企画等の検討など        | 36人  |         |
| 2025/10/09 | つながり報告会（異分野交流）                    | 43人  |         |
| 2025/10/23 | つながり報告会（異分野交流）                    | 49人  |         |
| 2025/11/13 | つながり報告会（異分野交流）                    | 36人  |         |
| 2025/11/27 | つながり報告会（異分野交流）                    | 46人  |         |
| 2025/12/11 | AIは『我々』か（異分野議論会）                  | 30人  | 7       |
| 2025/12/25 | AIは『我々』か（異分野議論会）                  | 10人  | 2       |
| 2026/01/08 | 人文学の知見の“社会実装”はどのようになされるか？（異分野議論会） | 38人  | 6       |
| 2026/01/22 | 人文学の知見の“社会実装”はどのようになされるか？（異分野議論会） | 42人  | 9       |
| 2026/02/12 | LLMを活用した分野融合アイデアソン（異分野ワークショップ）    | 14人  | 3       |
| 2026/02/26 | LLMを活用した分野融合アイデアソン（異分野ワークショップ）    | 26人  | 6       |

事務局からの連絡-つながり報告会の取り組み方-

- 取り組み方について
  - 「分野の世界観、方法論、前提の違いをお互いに深く理解するための場」として観点から、積極的に質問を行ってください。
    - 自身の研究に関する専門的なアドバイスを期待してしまうと、得られるものが少なくなるかもしれません。
  - 原則ビデオ・マイクオンで、チャットも活用ください。
  - 自分にない視点をもつ他メンバーの世界観やもの見方を理解するトレーニングだと思って、取り組んでいただければと思います。
- 質問の際の注意点
  - 「社会のどこに繋がるのか？」「なんの役に立つのか」といった踏み込んだ質問もOKとしますが、前提として発表者の研究の価値を完璧に認めただうえで、質問をお願いします
- 回答の際の注意点
  - その分野を知らない人にもできるだけ伝わるようになるべくゆっくり、自分の言葉で説明してください。
  - 一見失礼に感じられる質問も、自らの前提を振り返る機会だと思って真摯に回答を考えてみてください。



# リアルな学術的イベント

- オンライン上の活動をベースとしつつ、下記の通りリアルな交流・切磋琢磨の場を実施

## ① 奨励金の最終審査会

- イベント名: 日本財団 HUMAIプログラム最終審査会
- 開催日程: 7月19日
- 概要: 奨励金の審査に関して、書類選考と面接選考で選抜された応募者による発表と質疑応答、審査員による審査を経て、奨励金「C」に採択となる3名を決定
- 審査員: 松尾豊 (東京大学大学院工学系研究科教授)、東浩紀 (ゲンロン創業者・ZEN大学教授、哲学者・批評家)、宇野毅明 (国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授)、川上量生 (株式会社ドワンゴ 顧問)

## ② 夏期の合宿

- イベント名: サマーセッション 2025
- 開催日程: 9月6日～8日
- 開催地: 千葉県成田市
- 概要: 第一期の顔合わせとともに異分野交流の機会を提供し、今後の研究活動に活かす合宿形式のイベント。
- 異分野間の事項紹介、ポスターセッション、自由な形式でのゼミ、テーマを募っての議論会他。参加者数: 77名

## ③ 春期の合宿

- イベント名: HUMAI spring camp 2026
- 開催日程: 3月14日～17日
- 開催地: 東京都多摩市
- 概要: 第一期の集大成と第二期に向けたイベントとして、学生主体での合宿を実施
- 著名なゲスト(オードリー・タン氏、谷口忠大氏、東浩紀氏)を招いての対談・講演、AI技術相談会、学際交流企画、令和版ダートマス会議、HUAMI宣言他。参加者数 93名

## ④ 年度末の論考審査会

- イベント名: 第一回 HUMAI論考最終審査会
- 開催日程: 4月5日
- 概要: 年度末に提出が義務付けられる論考について、事前の審査を通過した8作品に関して、プレゼンと質疑によって最優秀作品となる「大賞」を選定
- 審査員: 東浩紀 (ゲンロン創業者)、伊藤亜紗 (東京科学大学教授)、桂大介 (リブセンス共同創業者)、川上量生 (株式会社ドワンゴ 顧問)、河野慎 (ZEN大学講師)



# コミュニティと融合した研究プロジェクト

研究プロジェクトとして「**人文学と情報学の共想による社会課題解決を指向する問いのカタログ構築**」を推進

- 国立情報学研究所の宇野毅明教授を中心とするポスドク・博士学生からなる分野融合的なプロジェクトチーム
- まったく新しい価値を作りたい人、それでもどう考えていいかわからない人に対して、指針となりアイデアを提供できるような事例、視点、俯瞰を与えることを目的として、「問いのカタログ」を推進
- 現在までに「問い」を20ほど作成し、研究代表者の宇野教授のHPで公開。今後も継続的なブラッシュアップや外部の推進を検討

## HUMAI学生コミュニティとの融合・活性化

- HUMAI学生コミュニティに向けた企画を積極的に実施
  - 宇野教授の**神田ラボ**を月2回程度開放し、交流の推進と研究相談等を実施
  - ゲストを招いてのトークイベント「**HUMAI研究ラジオ**」や、**分野融合を促進するな企画を実施**
- 夏合宿等のリアルイベントでの企画・交流や、HUMAIオンライン定例会で、メンバーの議論を活性化

## 異分野融合に向けた取り組み

- 各学問分野について、そこで活動する人の特徴について、外部向けに示唆をほとんど与えることのできていなかった点を踏まえ、**俯瞰的な視点から整理**
- 他分野や企業との関わりを作りやすくする「**メタ学問**」的な取り組みを実施。
- 2026年の人工知能学会全国大会での企画セッション「**人文社会学×AIの現在地と展望：HUMAIの実践から考える**」等で発表予定

### **3.助成事業完了報告（SI概論）**

## 事業内容

・主に新入生向けにソーシャルイノベーション・社会事業についての講義を実施し、その後の大学での学びや課外活動をキャリアと結びつけて考えられるようにする一助とするともに、将来ソーシャルイノベーションに関わる人材の育成を推進する

・授業の到達目標:「ソーシャルイノベーション(社会変革)の基礎を理論や具体例から理解し、行動に繋げる学びの土台を作るとともに、新しい時代における社会貢献活動の社会的意義や目的、経済的効果等に関する基本的な知識を習得する。学生が今後社会と関わる上でのロールモデルを知ること、社会課題の解決に向けた具体的なプロセスのイメージを掴む。」

・全15回、90分のライブ映像(生放送)授業を、2025年4月から9月にかけて実施。全15回のうち、13回は実際に社会事業に取り組んでいる実務家をゲストとして呼び、具体的にソーシャルイノベーションをどのように推進するか、どのように考えるか、どのように手をつければ良いかなどを自分ごととして学生がイメージしやすいようにする。

# 事業内容

・履修登録者数: 1016名

・単位修得率: 68.1%

・学生からの声

## 1. ゲスト講師の質と内容に関する評価

- ・ 刺激的で多様な視点を得られた
- ・ 毎回ゲストが変わることにより、飽きずに授業が受けられた

## 2. 学びや意識の変化に関する評価

- ・ 多様な社会課題とその解決について触れ、視野が広がり、見識が深まった
- ・ 身近にある小さなことからでも変えていこうという意識が身についた
- ・ 将来は社会課題を解決する側になりたい、という思いが生まれた

## 3. 授業の進行や形式に関する評価

- ・ ファシリテーターのすずかん先生・笹川さんとゲストの掛け合いが面白く、授業を興味深く見られた

## 4. 相互性について

- ・ 質疑応答やディスカッションの時間がもう少しあると、より理解を深められそう
- ・ 社会に紐づいた授業であるので、動画視聴後の学生間でのディスカッションの時間・場が欲しい

# シラバスとゲスト講師

| 日程 タイトル |                         | ゲスト講師                             |
|---------|-------------------------|-----------------------------------|
| 4/17    | イントロダクション               |                                   |
| 4/24    | ソーシャルイノベーションの基本概念       |                                   |
| 5/8     | 社会変革の現場から 子供の未来         | 李炯植 (NPO法人 Learning for All 代表理事) |
| 5/15    | 社会変革の現場から 私たちは海のことを知らない | 海野光行 (公益財団法人 日本財団 常務理事)           |
| 5/22    | 社会変革の現場から アスリートと挫折      | 本田圭佑 (サッカー指導者)                    |
| 5/29    | 社会変革の現場から NPOソーシャルデザイン  | 笈裕介 (NPO法人イシュープラスデザイン CEO)        |
| 6/5     | 社会変革の現場から 政治とインクルージョン   | 高島宗一郎 (福岡市長)                      |

# シラバスとゲスト講師

| 日程   | タイトル                            | ゲスト講師(敬称略)                     |
|------|---------------------------------|--------------------------------|
| 6/26 | 社会変革の現場から AIを活用した未来(1)          | 茂木健一郎(脳科学者)                    |
| 7/3  | 社会変革の現場から AIを活用した未来(2)          | 松尾豊(東京大学教授)                    |
| 7/10 | 発展途上国支援とソーシャルイノベーション            | 米良はるか(READYFOR株式会社<br>代表取締役)   |
| 7/17 | 社会変革の現場から<br>企業とソーシャルイノベーション(1) | 進藤智之(株式会社メルカリ執行役<br>員)         |
| 7/24 | 社会変革の現場から メディアが喚起する関心           | 藤田晋(株式会社サイバーエージェ<br>ント代表取締役会長) |
| 7/31 | 社会変革の現場から 建築とクリエイティブ            | 永山裕子(建築家)                      |
| 8/7  | 社会変革の現場から<br>企業とソーシャルイノベーション(2) | 龍崎翔子(株式会社水星 代表取締<br>役)         |
| 8/21 | 総括講義                            |                                |

### **3.助成事業完了報告(奨学金)**



# 事業内容

## 100名への奨学金の給付と対象学生のコミュニティ形成を目指す

- 「特待奨学生支援制度」募集概要
  - 期間: 2024年11月12日～2025年4月30日
  - [募集要項 \(Webサイト\)](#)

WD41112

**日本財団ZEN大学奨学金 募集要項 (2025年4月入学版)**

「日本財団ZEN大学奨学金」への応募を希望する方は、この募集要項をよく読み、申請を行ってください。

「日本財団ZEN大学奨学金」制度の概要・目的

「日本財団ZEN大学奨学金(以下、本奨学金)」は、学習意欲がある学生が、経済的・地理的な理由などで大学進学を諦めることのないよう年間奨励金(50万円)を全額免除する制度です。ZEN大学では、本奨学金に加え、本学独自の奨励金に加え、寄付金協賛者の機会を確保することを目指しています。

※本奨学金は、入学金(約10万円)と入学式(約3万円)のみの免除となります。

※本奨学金による奨励金に、すでに支給されている場合は併せて支給されません。

日本財団によるサポート

ZEN大学では、奨励金(年間50万円)を、学習意欲のある人へ全額支給いたします。また、日本財団の奨励金に加え、奨励金協賛者の寄付金による奨励金も支給いたします。

目次

- 1. 日本財団ZEN大学奨学金の種類(奨励金・奨励金・奨励金)
- 2. 奨励金・奨励金・奨励金の申請方法
- 3. 奨励金・奨励金・奨励金の申請期間
- 4. 奨励金・奨励金・奨励金の申請条件
- 5. 奨励金・奨励金・奨励金の申請方法
- 6. 奨励金・奨励金・奨励金の申請条件
- 7. 奨励金・奨励金・奨励金の申請方法
- 8. 奨励金・奨励金・奨励金の申請条件
- 9. 奨励金・奨励金・奨励金の申請方法
- 10. 奨励金・奨励金・奨励金の申請条件



2025年4月開学決定 ZEN大学発表会【10月31日設置認可】

- ▲ [2025年年度募集要項表紙](#)
- ▲ [2025年4月開学決定ZEN大学発表会 \(2024年11月12日\)](#)

### ZEN大学奨学金制度

| 授業料免除型   | 返済不要   |
|--|--|
| <p><b>日本財団ZEN大学奨学金</b></p> <p><b>金額</b> 授業料、入学検定料・入学金を全額免除(合計44万6000円)</p> <p><b>人数</b> 最大500名</p> | <p><b>特待奨学生支援制度</b></p> <p><b>金額</b> 年間原則50万円(※例外的に100万円)を給付</p> <p><b>人数</b> 最大100名</p> |

最大600名の意欲ある学生を経済面で支援

**日本財団 THE NIPPON FOUNDATION**

高等教育の間口を広げ、学ぶ意欲のある人の機会を増やしたいという考えから、日本財団の支援により奨学金を提供します。

▲ [プレスリリース\(2024年11月12日\)](#) より抜粋



# 事業内容

## 100名への奨学金の給付と対象学生のコミュニティ形成を目指す

### ● コミュニティ形成施策概要

- オリエンテーション・交流会（2025年7月）
  - 活動報告・告知など奨学生間での情報交換・交流 Slackチャンネルの開設（同上）

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>2025年度 特待奨学生支援制度<br/>オリエンテーション<br/>2025.07.25</p> | <p>目次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>01 本日の流れについて</li> <li>02 <a href="#">奨学生のみなさまに期待すること</a></li> <li>03 <a href="#">自己紹介タイム</a></li> <li>04 <a href="#">交流タイム</a></li> <li>05 <a href="#">今後の活動について</a></li> <li>06 <a href="#">感想シェア・質疑応答タイム</a></li> <li>07 <a href="#">閉会の挨拶</a></li> </ul> | <p>みなさまに期待すること</p> <p>みなさまはZEN大学の<br/>第一期 特待奨学生支援制度の奨学生です<br/>この特別なチャンスを最大限に活かし<br/>将来の活躍につなげていただくことを<br/>心から期待しています。</p> |
|--|--|---|

▲ オリエンテーションスライド（一部抜粋）

- オンライン中間発表会・交流会（2025年12月）
- 最終成果発表会・交流会（2026年6月に実施予定）※オンライン・オフラインハイブリット実施



# 事業内容(補足 :コミュニティ形成イベント概要)

2026/04/03 ブログ

## ZEN大学の特待奨学生はどのような活動をしているのか—— 「2025年度 特待奨学生支援制度 中間活動報告会」レポート

ZEN大学では2025年12月16日、特待奨学生が自分の活動について学内に向けて発表する「2025年度 特待奨学生支援制度 中間活動報告会」をオンラインで開催しました。

特待奨学生支援制度は、日本財団の支援を受け、社会的な実績のある学生や研究・活動面で今後の活躍が期待できる学生に提供されるZEN大学独自の奨学金制度です。当日は日本財団の方をお招きし、奨学生によるこれまでの取り組みを共有しました。

### 世界で多彩に広がる研究・探求テーマ

今回の報告会には21名が登壇し、一人あたり2分の発表を行いました。発表テーマは「テクノロジー」「サイエティ」「スポーツ」「アート」「リサーチ」の5分野に分類されましたが、学生ごとに取り組みは多彩で、個性豊かな内容が並びました。

海外を舞台に活動する学生がいるのは、オンライン大学であるZEN大学ならではの特徵です。アイルランドから参加した大橋莉央さんは、アイルランドの大学で医学を学びながら、ZEN大学でも学んでいるそうです。また、日本財団HUMAIプログラムのメンバーとしても活動しており、日本の小学校の健康診断の変遷についてAIを活用しながら研究を行っているとのことでした。

スイスでバイオリンを学ぶ大岩宝新さんは、楽器中心の生活では視野が狭くなりがちだと感じたことから、「知識を広げ、音楽表現の幅を深めたい」と、音楽大学ではなくZEN大学を選んだ理由を説明。歴史、心理学、社会学、文化人類学、AI活用

### ▲ 2025年12月実施のオンライン中間活動報告会の様子を綴ったブログ掲載 (2026年4月)

特待奨学生支援制度  
**中間活動報告会**  
2025年12月16日(火)  
15:00-16:00  
ゲスト 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

16時05分より開始  
特待奨学生支援制度  
**中間活動報告会**  
第二部 交流会

第二部プログラム

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 16:05~ | 開会                  |
| 16:06~ | 交流タイム (前半15分/後半15分) |
| 16:37~ | アンケート回答タイム          |
| 16:43~ | 今後についての大切なお知らせ      |
| 16:49~ | 質疑応答                |
| 17:59~ | 第二部閉会               |

※進行状況により、時間が多少前後する場合がございますご了承ください

交流タイム **前半：16:06~16:21**

- 前半・後半各15分ずつ、各自好きな部屋へお入りください
- 入室後、どなたか1名にファシリテーションをお願いします

テーマ

A：半年間の活動の「Good&New」  
良かったこと (Good) & 新しい発見 (New) をシェアしよう！

B：これからチャレンジしてみたいこと！  
こんなこと一緒にやりませんか！ 交流企画！

C：第一部の発表内容を互いに深掘り！  
もっと聞きたい！もっと伝えたい！

D：「ZEN大学奨学生：実際にやってみてどうだった？  
この半年間を振り返って気軽に話そう！

### ▲ イベントKVや中間活動報告会と同時に実施された奨学生交流会のスライド。

参加した奨学生からは「普段関わる機会の少ない分野の奨学生の考え方や視点に触れることができ、とても刺激になりました。発表を通じて「こんな考え方があるのか」と気づけた点が有意義でした。」「奨学生同士が連絡を取れていない、交流を深められていないことが共通認識で存在していることがわかり、忘年会開催などの具体的なネクストアクションに繋がった」とのコメントが得られた。



# 事業内容(補足：奨学生の活躍)

INTERVIEW

## 特待奨学生インタビュー

### 特待奨学生インタビュー

ZEN大学では、大学での学びを超えて実社会で活躍する学生を、日本財団のサポートによる特待奨学生支援制度を通して支援しています。今回は、特待奨学生支援制度を利用された井村和花さん、福田カポノ瑠介さんのお二人に話を聞きました。



#### 井村和花さん

東京都在住、全日制高校出身。イラストやゲーム制作、演劇などに取り組む。

#### 福田カポノ瑠介さん

鹿児島県在住、N高等学校（以下、N高）出身。サーフィンをはじめとしたマリンスポーツやウィングフォイルというセーリングに取り組む。

※ 左から今回のインタビューである溝谷美音さん、ZEN大学の井村和花さん、福田カポノ瑠介さん

▲ [奨学生インタビュー実施および制度紹介・インタビュー動画](#)と併せてZEN大学公式Webサイトへ掲載

2025/12/22学生の活躍

## 2025 ISA WORLD SUP & PADDLE BOARD CHAMPIONSHIPで1年生の福田カポノ瑠介さんが銅メダル

ZEN大学1年生の福田カポノ瑠介さんが、11月10日（月）から15日（土）にエルサルバドルで開催されたSUPサーフィンの世界選手権「2025 ISA WORLD SUP & PADDLE BOARD CHAMPIONSHIP」において、日本人として過去最高順位の3位となり、銅メダルを獲得しました。

### <福田さんのコメント>



▲ [奨学生の活躍](#)：ZEN大学公式Webサイトへ掲載